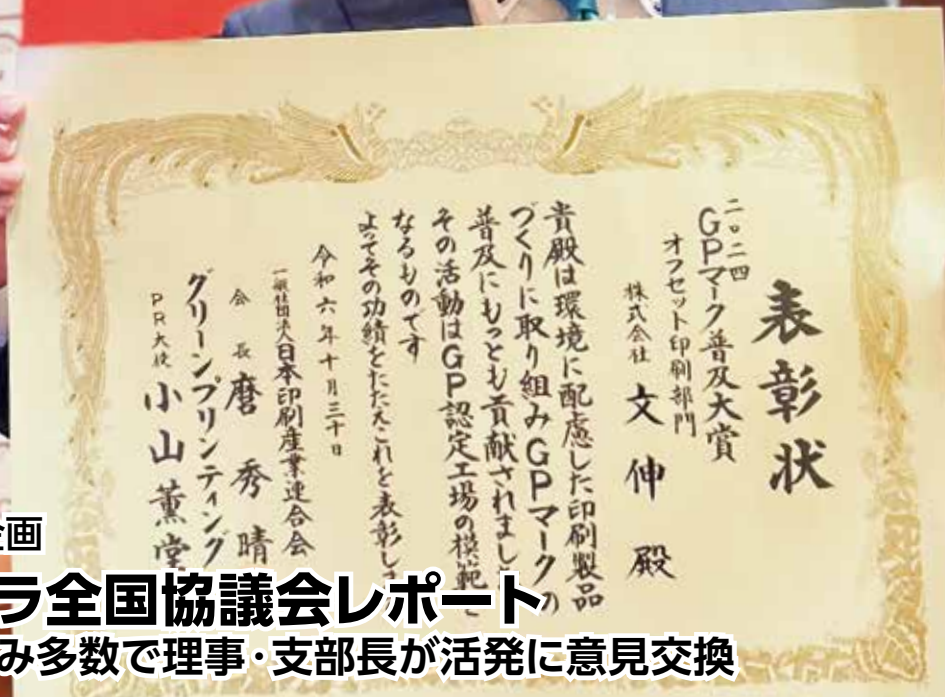


月刊 グラフィックサービス

No.877 2024 12



株式会社 文伸
代表取締役社長
川井 伸夫さん



■ 巻頭企画

ジャグラ全国協議会レポート

新たな試み多数で理事・支部長が活発に意見交換

■ 巻頭言

— このごろ — 秋田県支部長 松原 巧

■ 寄稿

「組合まつり」に参加して

— 東京グラフィックサービス工業会 文京支部
菁文堂(株) 谷山 和也 (広報委員会委員)

■ NEWSとお知らせ

ジャグラ作品展募集
第60年度・第5回理事会 議事録
日印産連「2024GP環境大賞等表彰式」開催
ジャグラの一年を振り返って

CONTENTS

■ 巻頭言

1 — このごろ —

秋田県支部長 松 原 巧

■ 巻頭企画

2 ジャグラ全国協議会レポート

新たな試み多数で理事・支部長が活発に意見交換
2日間にわたり本部事業を学ぶ

■ 寄稿

23 「組合まつり」に参加して

東京グラフィックサービス工業会 文京支部
青文堂(株) 谷 山 和 也 (広報委員会委員)

■ NEWSとお知らせ

10 ジャグラ作品展募集

16 第60年度・第5回理事会 議事録

25 日産産連「2024 GP環境大賞等表彰式」開催

28 ジャグラの一年を振り返って

■ NEWSとお知らせ

26 業界の動き

ジャグラ 自費出版文化賞の表彰式開催
アドビ「Adobe MAX Japan 2025」参加登録開始
東京グラフィックス 東京大会ロゴマークを決定
滋賀県支部 地域文化労作者表彰
経済産業省 振興基準改正

15 雑学コラム②

29 事務局日誌と今後の予定

12 富士フイルムグラフィックソリューションズ(株)

13 ホリゾン・ジャパン(株)

14 (株)小森コーポレーション

15 JaGra グループ保険

18 リコージャパン(株)

19 (株)モリサワ

20 (株)ショーワ

21 東京リスマチック(株)

22 (株)モトヤ

表4 リョービ MHI グラフィックテクノロジー(株)

月刊グラフィックサービス 発行趣意

月刊『グラフィックサービス』は、一般社団法人日本グラフィックサービス工業会会員、関係諸団体およびすべてのステークホルダーの皆様に、自社の質的向上に役立ち、知恵と勇気を分かち合うことを目指し発行するものです。

本会の存在意義である人間交流スペースを構築し、社会の多様な要請にタイムリーに対応しつつ、共通の経営課題を持つ会員をネットワーク化し、その交流を積極的に支援するとともに小さいことでも有利となる経営施策も発信する情報ターミナルとなることを理想とします。

またその情報発信手段は誌面にとどまらず、環境に応じて多様な発信方法を検討、遂行することを責務とします。

【概 要】

発行回数 月1回/年間12回

購読料 ジャグラ会員は無償(会費に含む)

・希望企業、団体への有償配布

配布方法 ・全会員へ直接郵送

・ジャグラホームページからのダウンロード

本誌へのご意見・ご要望・記事提供は下記宛お寄せください

Eメール edit@jagra.or.jp 電話 **03-3667-2271** ファクス **03-3661-9006**

お手紙 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 〒103-0001 (一社)日本グラフィックサービス工業会 宛

— このごろ —

秋田県支部長 松 原 巧



小学生の頃、学校から戻り玄関……(ただの出入り口)を入ると、冬はとても冷たい土間。そこに当時、跳ね上げバネのついた謄写版がありました。

1959年、自分の誕生と同年に小さな印刷会社が出来たんだそうです。自宅が仕事場でしたから、仕事が徹夜になった時には、私が寝ている横で県庁から来たおじさんたちが、原稿と斜めの校正台上の口ウ原紙で朝まで校正作業をしていました。しっかりと憶えています。

スミの香りと臘脂色の修正液の匂い。そこが私の普通に生活する場所でした。

タイプライターから写植へと、止まらない進歩とともに、たった3畳間だけれど貰っていた個室もいつの間にか写植のお部屋になりました。知らないうちにお風呂場の奥が暗室になっていました。

今も残っている鉄筆の痕と暗室の名残。そうして「印刷」の歴史のほんの一部分に触れながら、ガリ版・謄写印刷で仕上げた製品の、納品のお手伝いを始めたのは幼稚園の頃だったようです。

おかげで体力・腕力を貰いました。ただ、ある時からそれを違った方向へ使うことになった自分は、あるスポーツに集中していきました。みんなに応援して貰って、大会出場～1日に10時間ほどの練習やトレーニング～貧乏海外遠征～オープン大会への出場などと、何とも目まぐるしく選手の期間は過ぎ、アルバイトを除いて人生初めての職業はその競技のコーチ業でした。地元に戻ってからも、少しの間は仕事と選手を兼ねる日常。あちらこちら、たくさん故障や怪我をしました。何せやり直しの選手でしたから。

そして現在、ここ10数年は有り難いことに、お世話になった競技と印刷の仕事上の関りを持たせて貰っています。言ってみればこれは宝物。自分はとてつもなく不器用なので、いくらジャグラの事をやりなさい！と言われても、この用事とばつかってしまった時にはごめんなさい、お断りします。

孔版印刷……ガリ版屋さんをご存じない方はたくさんいらっしゃるでしょう。

近頃感じていることは、いまの自分の基本はここにあったんだなあ、と。どうりで仕事として馴染むのが早かったような気がしています。

ただし、この頃思うことのひとつ。

目の前にはあまりに多くの情報がありすぎて、選別をしなければならぬのか？ ……選別なんていけないことな

の？ 自分で決めるのが難しい人はいませんか？ 生きづらくなっている人はいませんか？ 実際、不器用な私にはとても難しいことです。

他人様に見せられるような文章は持ち合わせません、とお断りしたのですが、こうなってしまったからには、日頃口に出したくても言えなかったことを失礼ながらここに。ある時、サステナブルな内容を中心に講話をされた方の講演後のお話です。

「なじめない人はどうせ消えるのだから」「自然淘汰といえるのが一番良い方法」と聞こえてきました。

偉い人が話すと周りの人々は自然と頷くものですね。

この言葉、気に入らない所を切り取ったわけではなく、ふーん、本心なんだ、と思えた二語でした。

SDGsの一環としておこなったバザーでのこと。

持ち寄るものが無いから無理して新しく買い求めたり、ほかの子どもと違うことを悲観して泣いて帰った子。

何を作り出しているものやら。たったひとりでもそんな子がいてはいけないのに。

関係の無い人は、そんなことは何も知らない。

団体や組織、企業などはきっと入れ子人形のようなものかもしれない。

ひとつ開けてそれで終わりと思うな。中から何が出てくるかわからない。

難しいけれど面白い。面白いけれど難しい。

一人ひとりに心と考えがあるのだから。

いつの時も、宝とされるべきは人の心。そして、そこには底辺も頂点も存在します。

ぜひとも、どの立場の人も雑草の花のように。

生きることを遠慮せずに、自身のステージを見つけそれに向けて歩んで行けたらいいなと思うこのごろです。

社長様方などではないどなたかが、お一人でも良いから読んで下されば、と願いつつ。

書き方に飽きると窓縁に突き刺して遊んでいた鉄筆の痕



半世紀以上、なぜか残っていた「暗室」二文字

ジャブラ全国協議会レポート

新たな試み多数で理事・支部長が活発に意見交換 2日間にわたり本部事業を学ぶ

11月8日、9日の二日間にわたり、ジャブラ本部の全国協議会が開催されました。今回は会場を両国に移し、ディスカッションを一日で完結させ、二日目に事業説明のセミナーを開くなど、設えも変えて実施しました。全国協議会一日目のレポートをご紹介します。

<タイムスケジュール>

1 日 目

- ・会長挨拶
- ・座長就任
- ・サステナブル委員会 松下委員長挨拶
- ・サステナブル委員会事例発表
中央印刷（山形県支部） 後藤彩香さん
みやもと（栃木県支部） 宮本 誠さん
- ・グループディスカッション
- ・グループディスカッション発表
- ・総括
- ・ジャブラ文化典東京大会進捗状況について
原田運営委員長、稲満実行委員長
- ・2025年巳年年賀状デザインコンテスト表彰式
プレゼンター 樋貝委員長
- ・ジャブラグループ保険のご案内
- ・外国人材雇用プロジェクト
リョービ MHI グラフィックテクノロジー 広川社長
キャレオス・パートナーズ 森様
- ・日本プリンティングアカデミー PR
- ・閉会
- ・懇親会

2 日 目

- ・座長挨拶
- ・ジャブラコンパス—セーフティマップの紹介
地域活性化委員会 齋藤委員長
- ・ジャブラコンパスのビジネス提案 ディスカッション
佐藤委員（大分）、森田さん（熊本）、大塚さん（東京・新宿）
- ・MIS 研究委員会発表
- ・委員会 PR タイム
- ・閉会

沖相談役

一日目座長の
尾形副会長

開 会 挨 拶

岡 本 泰 会長

今日の全国協議会は今期理事、支部長になられた方にとっては初の全国行事になる。ジャブラが今どのような方向に進んでいるのか、地協支部が今どういう状況か意見を交換し、ジャブラがより良い方向に向かうように皆さんの情報を共有してもらう場となる。

今日はサステナブル委員会から2社の事例を紹介した後、グループディスカッションをしてもらう。趣向を変えて事例を聞いて、「もっとこうしたらいいのでは？」という意見を議論いただき、2社にプレゼンしてもらいたい。外部から自社にアドバイスをもらう機会はなかなかない。

翌日は DX 関連の情報を発信する。午後には自費出版文化賞の表彰式もある。2日間長丁場だが、しっかり参加してもらい、色んな情報を交換してもらいたい。

サステナブル委員会 松下忠委員長挨拶

サステナブル委員会が設立されて3年目になる。今期は“サステナブルなスモールビジネス”をテーマに研究している。その中で、大成功という訳ではないが、身近に良い事例があった。SDGsについては、皆さん何らかの形で取り組まれていると思う。しかし、サステナブルな活動で利益を出しているところはない。ボランティアは多いがそれがビジネスにつながって利益になっているか、全国的に探しても事例が無いということがこの2年間の活動で導き出した答えだ。

今日発表する2社も大成功はしていない。むしろ課題が沢山あるという。その課題を克服し、活動を通じて利益を出していきたいという。グループディスカッションの後、皆さんから色んな意見をもらいたいという想いで引き受けてくれた。

皆さんからいただいた提案を踏まえて1年後にどうなったか、フィードバックもできればと考えている。明るくま

サステナブル委員会事例発表① 中央印刷株式会社（山形県支部） 後 藤 彩 香 さん

残紙とは何か。中央印刷では印刷の際に出てしまう残った紙を指している。中央印刷は社員30名、ペー
ジ物が売上の50%を占める総合印刷会社。1955年
に創業し、1958年、ジャブラに加盟する。1968年
に3社が合併して今の中央印刷を設立した。2021年
より、印刷残紙専門店「3'412」（ざんしじゆうに）
を開設して現在に至る。

印刷の売上が減少する中、新しい提案がないか、社
内で意見を求めたところ、女性社員から断裁時の残紙
がもったいないので使えないかという意見が上がった。

調べたところ同社では、年間10トン近くの残紙が
出ていることが分かった。その10分の1でも商品化
できないかと後藤彩香さんをはじめ女性社員が中心と
なってプロジェクトを発足した。

活動開始に伴い、2020年、山形市が設立した公営
営業アドバイス事業を手掛けるY-biz（山形市売上増
進支援センター）に相談した。Y-bizでは、市が全国
から企業コンサルを募集して契約し、アドバイザーと
して市内企業の新事業立ち上げや、新商品開発のアド
バイス・コンサルティングを行っている。

Y-bizから紹介されたコンサルティングから、「ター
ゲットをどこに絞るか、どのような商品をつくるか、
どのような方法で売り込むか」を考えるようアドバイ
スをもらい、社内で検討した結果、「20～40代女性
をターゲットに、きれいな紙の詰め合わせをオンライ
ンショップやマルシェ等での対面販売で売り込んでい
く」こととした。

数回のコンティングを経て、ネットショップの名称
を「残紙を自由に」→「ざんしじゆうに」→「3412」
→「3'412」として命名した。ショップ立ち上げに際
し、後々のトラブル回避のため、商標登録も行った。

その後いかに全国販売するため情報を発信するか検
討し、インスタグラムなどのSNSを利用し、残紙を
使った工作事例を投稿していった。準備を整えたう
えで2021年5月25日に正式オープンし、現在に至る。

ショップ開設後、Y-biz協力のもとプレスリリース

じめに議論してもらい、提案する際は必ず根拠を提示して
いただきたい。

を発信し、新聞社や放送局にPRしたところ、マスコ
ミ各社でSDGs関連での取り組み面で注目を浴びは
じめた。

ここにきて残紙の活用が中央印刷のSDGsの取り
組みの大きな柱になった。しかし一方で、ゴミを売っ
て儲けているのではと同業者からの声も出てきた。

より社会貢献にも着目しようとショップ展開と並行
して、山形市役所管轄の学童保育所77か所へ残紙（商
品）を寄贈。市から感謝状をもらいSDGsの取り組
みを深めた。その後も定期的に各機関に寄付を行って
いる。

ショップ開設4年目で残紙販売事業を行うこと で得た学び

1 SNSによる情報発信の学び

気軽に始められる一方、継続し
ていく難しさを学ぶ

2 販売の喜びや苦しみを現場社 員も直接感じた

DTP社員は直接営業機会がな

い。残紙販売はネットに加えてマルシェで販売すると
直接反応を得ることができた。

「3'412」そのものだけでなく、取り組みの背景が
記事化していくと、各方面から女性戦力の向上でも注
目を浴びようになり、同社の知名度がさらに上がつ
ていった。

社内的にも業界外との人脈ができコラボ商品の販売
につながったり、社員のもったいない意識が向上する
などの効果を生み出している。

正式オープンから4年が経過し、様々な課題も出て
きた。まず第一に、需給バランスの問題。残紙ありき
で商品が作られるため、残紙がないと販売ができない。
残紙なのでそもそも前回と同じ用紙を用意できない。
また、体制的にも専門部署があるわけではないため、
通常の印刷業務とのバランスが難しい。繁忙期に欠品
や配送の遅れ、問い合わせスピードの遅延が生じて
いる。

実際に売上で見ると、同社の年間売上約2億5,000
万円に対し、30～50万円ほど。現状0.1～0.2%
程度となっている。

しかし中央印刷としては売上比率では微々たるもの
だが、それに見合う以上の学びを得ていると自負する。



中央印刷の後藤社長





サステナブル委員会事例発表② 株式会社みやもと（栃木県支部） 宮本 誠さん

株式会社みやもとは、栃木県宇都宮市に本社を構える元オフ輪会社。以前はベビー輪転機4台を設備し、社員が80名ほどいた。その後折込チラシなどの減少に伴い、オフ輪業務から撤退し、現在25名ほどで地域の様々な印刷物を取り扱っている。

下請け中心の印刷事業だったが、ものづくりからコトづくりへと事業方針を転換し、デザイン業務の方へと徐々にシフトしている。

宮本社長は2019年にジャグラ文化典栃木大会を開催した時には、実行委員長を務め、大成功に導いた。支部長を務めていた2017年の全国協議会では、全国各地に埋もれた地域独自の武将をジャグラ会員がプロモーションすることで、地域活性化やインバウンド誘致を掘り起こし、シビックプライドを醸成させることで会員企業の繁栄に寄与できないかと、今回の発表内容でもある「栃木の武将『藤原秀郷』をヒーローにする会」の活動を発表した。今回はその後の展開について紹介していただいた。

もともと宮本社長自身は、歴史が好きなわけではなかった。市内にある二荒山神社の由緒書きを歴史に詳しい人と見ている時にはじめて、藤原秀郷が栃木の人であることを知ったに過ぎなかった。

栃木には城がないため那須与一くらいしか有名な武将はいないと思っていたという。そこから藤原秀郷に興味を持ち始め、活動をスタートしていった。

この間の活動としては、「近江の大ムカデ退治の講談」や「宇都宮の百目鬼退治のアニメーション作成」、鬼滅の刃のモデルは藤原秀郷だったというムックの監修者である小野田哲夫教授による講演の企画などを手掛けてきた。講演会には実に400名近くが集まった。

5年ほど前からSDGsが注目されはじめ、藤原秀郷の知名度を広げていくのに有効と判断した宮本社長は、4「質の高い教育をみんなに」、8「働きがいも経済成長も」、12「つくる責任 つかう責任」を絡めて取り組みを進めた。特に地域活動で観光誘致できるのではと行政や学校にアプローチをはじめた。

2017年には、宇都宮市民シティープロモーション支援事業に採択され、「百目鬼を探せ」というスタンプラリーを実施したり、2018年に市内の博物館で藤原秀郷展の開催に併せてコラボレーションのスタンプラリーを企画した。

2020年には本格的に「栃木の武将『藤原秀郷』をヒーローにする会」を発足。毎月セミナーを開催し、取材等も行ったり、夏休みに博物館でワークショップを手掛けたり、認知度拡大の活動ではコロナ禍にZoomのパネルディスカッションをやったり、小規模でも集まるようなイベントを続けた。

地域活性化を掲げるとよく地元の新聞社などに取り上げてもらうようになった。取り組みから8年目を迎えて、結論は「儲かっていない」だが、直近で色々と引き合いが出てきている。まずはテレビ東京の番組「モヤモヤさまぁ〜ず2」への出演依頼があり、9月21日の放送で紹介された。

コロナ禍はSDGsと結び付けてもなかなか動きがなかったが、コロナ禍以降、テレビプロデューサーなどはネットで情報を集めているのを知っていた宮本社長。藤原秀郷はブルーオーシャンだと信じて疑わず、継続的に情報発信していけばネタ的にも反応があると考えていたところ、見事に民放にのせることができた。

また自社ホームページではあえて藤原秀郷単体ではなく、「坂東武士図鑑」として展開している。これは少し前にNHK大河になった「鎌倉殿の13人」が始まる時に坂東武士が流行ると思ったという。狙い見事に大河放送中は同社へのアクセスが3万ページビューに上った。今も「光る君へ」で藤原家が出てくることもあり、2万ビューほどコンスタントにアクセスがある。

直近の引き合いでは、スポーツ庁が進めているスポーツツーリズムで栃木県も“武道ツーリズム”に取り組むこととなった。栃木県は弓道が全国的にも強く、その理由を藤原秀郷だと発信し続けていたところ、つながっていき、県が進める武道ツーリズムへの協力依頼が持ち掛けられた。現在、プラン作りのために日外国人を20名募集して、インバウンドツアーを実施したが、今まで培ってきた経験から苦も無くスケジュールを組むことができた。

現状の課題としては、一見成功しているように見えるが、会社だと宮本社長ひとりでやっている感があること。

本来、企画制作室の教育とプレゼン力向上のためにスタートしたこともあり、採算度外視だった。当時、年間収益が約60万円に対し、経費が100万円超かかっていた。まだ余裕がある頃だったので続けられたが今では難しくなりつつある。収益性でいうと会社のPR、求人、教育等には寄与しているが収益活動にいたらないことが大きな課題となっている。

グループディスカッション

中央印刷、みやもと2社の事例を聞いたうえで、各グループで指定された会社の取り組みについて、より良い方法、収益化し持続可能な事業にするためのアイデアが検討された。



発表者：川井支部長
（三多摩支部）

テーマ：中央印刷事例

旬を意識した商材の作成、アーティストとコラボできな

いかななどの意見が出た。そんな中で葉っぱやクジラの形に切り抜いたサンプルがあった。型抜きをメインにして商品を販売した方がウケがいいのではないかと。残紙はどんな紙が出回るか読めない。どこの印刷会社も課題だが、逆に紙吹雪にしたり、子どもの紙のつかみ取りにするなどのアイデアもある。

課題はスタッフの問題。目的が売上にいくとそもそものスタートの趣旨と変わってしまうのではと危惧した。目的を原点回帰することが大切。残紙を楽しみながら儲けではなく、なぜ取り組み始めたかを忘れない。回りまわってビジネスにつながっている。無理してやらないことでB to Cの仕事が増えて残紙が増えることになり、社員のエンゲージメントにつながるのではないかと。

結論としてAグループでは

- ・無理をしない
- ・原点回帰することを提案する。



発表者：伊東理事

テーマ：中央印刷事例

具体策や他の取り組みなどたくさん意見があった。残紙を使って仕事を生み出したこと、プロセスの中で一番大きいのは社員が新たなことに

チャレンジして楽しんでいる点が挙げられる。SDGs含め持続可能な目標を達成するには社員の意識改革や変化を求めることが大切。その点で活動が寄与しており素晴らしい。

問題はその先に収益化、事業化できないのかどうか。結果的に楽しんでいるが、社内でも楽しんでいるだけで仕事ではないと言われることが辛いという。事業化すればいいか何が必要なのか。

残紙でつくるといというのは作り手側の論理でしかない。ユーザーが何を求めているのかという視点に立っていないのが一番事業化していく上で課題ではないか。事業化、収益化するに、例えば、自分たちでお店を作ってはどうか。東京などでは紙に触る場があり、その上でものづくりができるが、地方にはあまりない。だからこそチャンスもある。スタートは残紙でいいが、触っていいと思って、買ってもらえるお客様を集める。その顧客から本当に何が欲しいのかマーケティングしていく。

次に残紙じゃなくても売れる商品を作りながら顧客に買ってもらおう。その先に印刷の商談を受ける店舗づくりを提案する。

今頑張っている社員が単に作ってお客様に喜ばれるという体験だけでなく、そこから本当に欲しいと思ってもらえるものを何か作れないかという発想になれば、社員が次のステップに上がれる。企業としての持続可能な目標を作れるのではないかと。

これを起爆剤に地域や顧客、社員とお客様が接する新たな面をつくり、商材や次のテーマを見つけていければ素晴らしい活動になると思う。自分たちがどう進めばいいか、お客様との接点をどうするかが最終的なサステナブルにつながるという結論に至った。





**発表者：立木支部長
(京都府支部)**

テーマ：中央印刷事例

サンプルをみるともっと用途を広げてはどうかと思ったが女性ならではのニッチな需要もあることが分かった。会社のネームバリューは上がっているが、収益性を考えると、1セット200円だと人件費も含めると難しい。広げていくには残紙の供給の問題もある。しかし、ブランディングの観点から成功している。

需要や供給等の課題はあるが、そこは無視して閑散期にやって取り組みをマスコミに取り上げてもらい、中央印刷の宣伝、企業イメージアップにつなげる、現状維持でいいのではないかというまとめであった。



発表者：武川理事

テーマ：みやもと事例

課題を4点に整理した。

①認知度をどう拡大するか

②どのようなコンテンツ、イベントをつくるか

③行政、団体の利用

④継続の大切さ

①では、秀郷の子孫などに広げ、話を膨らませる。歴史好きをさらに結集し、イベントを通じて参加者に発表させ、出版を行ってもいい。伊達政宗のように認知度を広げれば自ずと取り上げてもらうことができる。

②については、宮本武蔵好きがインバウンドで熊本に来るように、武道ツーリズム、弓道を有機的に結合して観光まつり、教育などに展開する。

栃木県全体の魅力をPRする視点から藤原秀郷を位置づける。秀郷と将門の連載を企画する。クラウドファンディングで1,000万円以上の資金を集め、それを元手に編集プロダクションと組み、出版社と交渉し連載を勝ち取る。

基本的に史実にこだわらず魅力あるキャラクターを創り出す。みやもとは、プロデューサーとして10年で100億円を稼ぎ出す。

③は、観光局やコンベンション協会と組む。中高生に教育し、育成された中高生を活かす。イベントはスポットではなく毎年行うようにする。順序は払げる、続ける、儲かる。

④企画力を生かし、継続すればきっと成功するはず。



発表者：小澤理事

テーマ：みやもと事例

今回の課題は収益性。ここにフォーカスして企画を考えた。ゴールは、「プロモーション事業を確立して収益化を実現する」とした。

プロジェクトは「The 1st SAMURAI」と命名。日本最初の武士というキャッチフレーズで売っていく。映画ラストサムライが海外で大ヒットしたが、ファーストサムライは誰なのかという話が海外で話題になった。

藤原秀郷がファーストサムライだということをインバウンドでPRする。売り込みの切り口を変えることを手法に進める。具体的には、英語サイトを作ったり、インスタに投稿する。サブキャラも遊び心で商品化していく。例えば食べ物はインパクトがあるのでは。百目鬼ギョーザを作って売っていくのはどうか。8年間培ったネットワークを今こそ活用する時だと思う。



**発表者：金子支部長
(千代田支部)**

テーマ：みやもと事例

まず活動を継続する。採用知名度等の宣伝を強める。栃木県として推すことも必要だが、武将巡りでご朱印帳のようなものをはじめてしまう。敵役の将門をもっと活用してアピールしてはどうか。

モニタリングツアーをインバウンド展開していく。もっと体験ツアーを充実していく。歴史は過去の出来事なのでコンテンツが増えていかない、SNS展開と相性の良い食と結び付けてコンテンツを増やす。

各所にある所縁の地を観光地化していく。将門を討った地や藤原秀郷の生誕地や終焉の地などをアピールしてい



く。実際に来た人がさらに県外に認知度を広めるようなチラシなどをもっと提案していく。



**発表者：山下支部長
(城西支部)**

テーマ：みやもと事例

みやもとの事例を聞いて、自分たちのご当地の武将につ

いて考えてみた。各地にも意外とご当地の有名人がいるが認知されていない。ご当地キャラを皆でぶつけてジャグラの会を強くするためにも、皆で集めてそこから何か新たなものを生み出してはどうか。



登壇者ら



岡本会長総括

2社の事例でディスカッションしてもらった。今までにないパターンで講演者に取り組みを聞いて何か提案するため、短い時間で2社の事例を深く知ろうとしたと思う。これもマーケティングの一つだ。短時間で相手の背景を知って提案していく。こうした作業そのものがこれから印刷業で必要になると話を聞いていて感じた。



SDGsの収益化は難しい。後藤副会長に当初、講演を依頼した際、全然儲けにつなげていないから皆さんの参考にならないんじゃないかと言われていた。ではなぜ取り組むのか。このままだと地球に住めなくなるのでやろうというところが根本になる。経営者としてSDGsに取り組むには収益とはまた別の考え方を持たなければ続かない。

ただ、後藤さんのチームの中には、本当にこの仕事会社が社のためになっているのかと不安を抱えている社員が必ずいる。経営者がSDGsをやるならプロセス数値で人事考課できる仕組みを作らなければやっている人はどんどんテンションが下がる。続けていくことが、地球にとって、日本にとって、社会にとって、自社にとってすごくいいことでやらなければならないという強い意志が経営者に無ければならない。

反面、収益化の問題がある。やっていることを企業のイメージアップにして副次的に仕事へつなげていく。どうせ同じものを頼むなら中央印刷にお願いしようとなる顧客心理をどう評価してあげるのか。メディアに取り上げられるようになった功績をどう経営者が評価するか考えていけばいいのではないかと。

いずれにしても環境問題は取り組まなければならない。組織の長たるものは長期的な視野で課題となっている認識を持たなければならない。目の前のことだけで会社は続かない。SDGsに取り組むということは、日本の社会、自社を通じてより広い範囲でどうビジネスをつなげていくかということになる。あとはそれをどう評価するかの問題だと各グループの話を聞いていて感じた。



東京大会を PR する原田運営委員長（左）と稲満実行委員長（右）



グループ保険を説明



あさひ高速印刷・岡社長



JPA を PR する前田様（左）



閉会・神山副会長

ジャグラ文化典東京大会 進捗状況について 原田運営委員長、稲満実行委員長

2025 年 6 月 21 日、東京・浅草の地でジャグラ文化典東京大会が開催される。会場は浅草ビューホテル。テーマは「印刷復活—情報文化の可能性は無限大—」。

10 年に 1 回、ジャグラの周年に合わせて東京で開催されるが、10 年の変遷を総括してもどうかと議論になった。その中で、ジャグラビジョン 2010 に記されている、「顧客・市場の理解」「戦略の策定と展開」という定義がある。早くから軽印刷からグラフィックサービスに名称変更していく先見性がジャグラにはある。すでに色々なところでよく言われているが、発注者は印刷が目的ではないことが多い。顧客の課題解決が一番大事になる。長年やっていると今までの感覚で印刷の品質に目を向けがちだが、そもそも顧客の課題は何なのかというところから入るべきで、そこから入ると価格競争にならない。リピートばかり追い過ぎると価格の話になりやすい。

昔は顧客のニーズとこちらの技術革新などの発展とマッチしていたため分かりやすく関係を構築できていた。今は顧客の課題も変わって、印刷だけが目的ではないことを把握すべきだ。ただ、今から一から印刷業をはじめるには参入障壁は高い。逆に強みになる。新しいアプローチは既存のリソースをいかに生かすかが重要だと思う。

浅草の地を選んだのは、浅草が文化を育んできた町だからだ。文化を作ってきた印刷業の気概を見せて、再出発のエンジンをかけていこうという想いをテーマに込めた。多くの方の参加を待っている。

年賀状デザインコンテスト

『2025 年巳年第 12 回ジャグラ年賀状デザインコンテスト』は会員企業・個人から 231 点（43 社）、学生 201 点（11 校）、総数 432 点の応募があった。特別企画ではクリスマスカードのデザインも募集し、68 点が集まった。また、今年から最上位賞の『会長賞』を『最優秀賞』と名称を改めた。全国協議会場で表彰式が行われ、各部門の最優秀賞受賞者に賞状と副賞が贈られた。

カラー部門：株式会社一関プリント社

モノクロ部門：メディアフタバ株式会社

学生部門：HAL 名古屋・武石海聖

ジャグラグループ保険のご案内

長年続けているジャグラグループ保険について、引き受け会社のジブラルタ生命ならびに大樹生命の担当者に説明してもらった。

本保険はジャグラが契約者の専用グループ保険制度となる。保障は死亡、高度障害、障害給付金、5 日以上入院給付金。保険料の負担は事業所で、受け取り人も事業所となる。対象者は事業所で働く社員。

特徴は 3 つ

1. 掛け金の手頃感。弔慰金制度で利用の場合、1 口 100 万円で加入したすると、50 代男性なら 574 円 / 月となる。加入企業全員で保険料を集め、保険金を支払い、余った場合は配当金として返還する。
2. 掛金を損金計上できる。掛金から配当金を引いた額を全額損金に使える

3. 申し込み手続きの手軽さ。申込書として口座の用紙のみで終わる。加入は毎月 1 日に入れる。特に外国籍の人が加入する場合、印鑑が不要でサインのみで手続きできる。

あさひ高速印刷・岡社長（副会長）

当社は何十年と加盟している。正社員は 2 口で入って、不幸があった時に 300 万円を支給できるようになっている。損得が気になるところだが、うちは恐らく入っている人が多いため、死亡率も高い。私が記憶にある範囲でも仕事ではないところで亡くなったオペレーターが 3 名いて、死亡給付金をもらえるので遺族の方にも喜ばれている。総務にグループ保険について聞いてみたが、不慮の事故での 5 日間以上の入院なので、風邪などでは使えないことだけ注意してもらいたいという。

色々探せばもっといい保険もあるだろうが、事務作業の簡便さなども含めて長年加入している。

外国人材雇用プロジェクト

リョービ MHI グラフィックテクノロジー 広川社長
キャレオス・パートナーズ 森様

RMGT-CSPI と外国人専門職業紹介エージェント・キャレオスパートナーズは、印刷会社の人手不足解消の手段の一つとして、外国人材の供給支援に向けて仕組みづくりを行っており、その一環でジャグラ会員へ優先的に人材を紹介するプランも検討している。

同社が手掛ける人材供給支援の特徴は

- ①採用する人材を選別し、ふさわしい人材を採用できる

日本プリンティングアカデミーPR

次世代の印刷人を育成する日本プリンティングアカデミーの活動について、JPA の前田太樹様よりご紹介があった。

懇親会

全国協議会一日目の締めとなる懇親会には、ジャグラ賛助会員の皆様もお招きし、各社紹介のあと、賛助会員懇談会として理事・支部長の皆さんと交流いただいた。また、今回は 2026 年のジャグラ文化典大阪大会について、木原実行委員長が登壇してキックオフしたことが発表された。

年賀状デザインコンテスト最優秀賞受賞者
（左：一関プリント社代理・戸来理事）



HAL 名古屋・武石さん



メディアフタバ(株)
森下さん



一関プリント社
菅野さん



年賀状デザインコンテスト
表彰式司会の樋貝委員長



外国人材について紹介する RMGT の
広川社長（左）とキャレオスの森様（右）



中締める露木監事



懇親会



2025年はジャグラ創立70周年



ジャグラ作品展 募集しています

デジタルコンテンツ也大歓迎!

出版部門

宣伝部門

業務用印刷部門

開発・開拓部門

♡ 応募期間 ♡

2024年12月1日 [Sun] ~ 2025年3月31日 [Mon]

〔作品は2024年に作られたものに限ります〕

去年は600点以上の応募をいただきました。
今年もぜひチャレンジしてください!



↑過去の受賞作品はこちら

狙え!!

作品展で自社アピール!

優秀作品には大臣賞を授与

「ジャグラ作品展」とは
グラフィックサービス業の技術力向上や
マーケットへのアピールを目的とするもので
ジャグラの前身である日本軽印刷工業会が
社団法人を設立した1966年より
開催されている歴史あるコンクールです。

表彰式は文化典東京大会で!

未来へチャレンジ!



大臣賞受賞4作品に
賞金3万円が
授与されます

開催要項

審査対象

作品は2024年中に完成したものに限り
(2024年1月1日~12月31日までの作品)

審査方法

全三回の審査会にて審査基準に基づき採点し、
順位を決定

応募方法

- ・応募作品に申込書を添えて、本部までご送付ください
- ・申込書はジャグラHPよりダウンロードできます
- ・原則、作品の返却は行っておりません



ジャグラ作品展出品申込書

No.

事務局記入欄

申込日 年 月 日

会社名		担当者	
住所		支部	
E-mail		電話 / FAX	

☐ 発注者に出品の了解を得て、または受賞後了承を得る予定の作品を申し込みます。AIが作成した作品ではありません。
チェックをお願いします

事務局キリトリ線

作品名
(記入必須)

No.

事務局記入欄

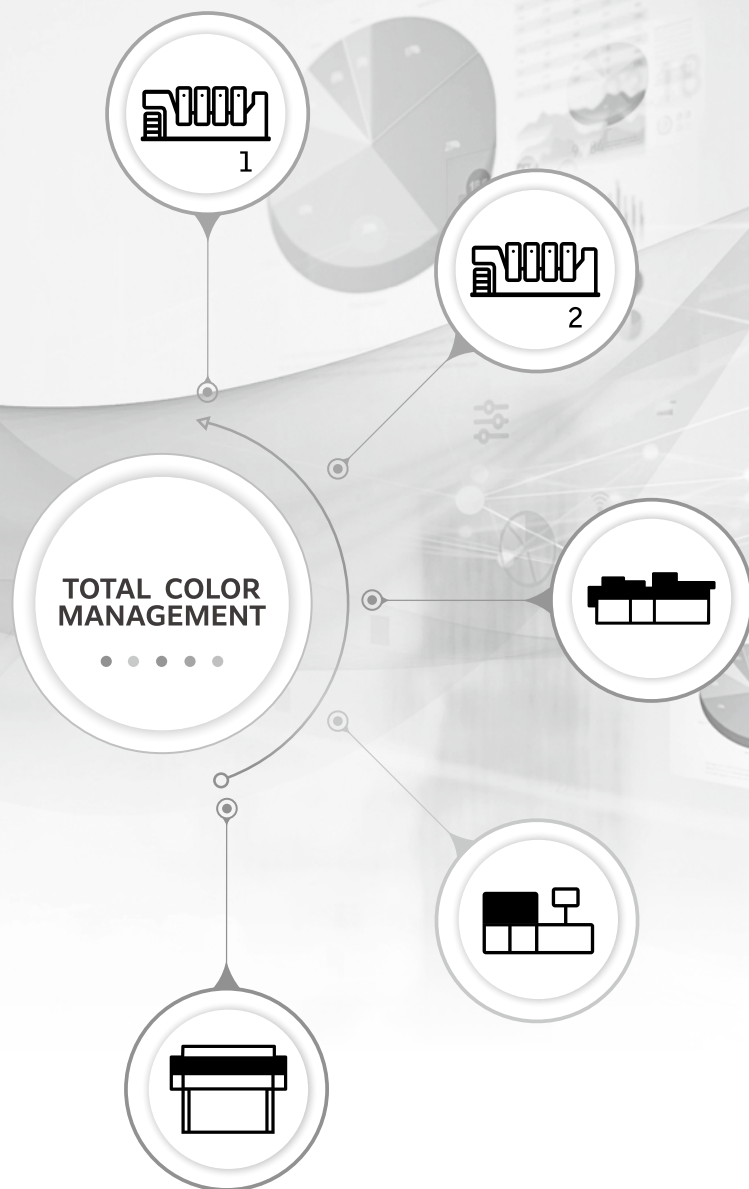
希望する部門にチェックしてください(希望にそえない場合もあります)

- ☐ **出版部門** いわゆる出版物と言われる物
単行本、文芸書、教科書、学術参考書、専門書、法規集、写真集、雑誌、ハンドブック、自費出版、定期刊行物、復刻版など
- ☐ **宣伝部門** 宣伝的要素の強い印刷物で、主としてカラー印刷物や凝った印刷物、デジタルコンテンツ
カタログ、ポスター、ダイレクトメール、リーフレット、チラシ、POP、パンフレット、カレンダー、PR誌、各種案内書、HPなど
- ☐ **業務用印刷物部門** 本業界が主流としてきた印刷物。また、商業印刷物のうち、モノクロ印刷物も含む
研究報告書、文集、記念誌、機関誌、便覧、手引書、名簿、会議資料、大会等資料、会報、年報、リスト、パーソナルユース(年賀状、レターヘッド、ハガキ、名刺)など
- ☐ **開発・開拓部門** 拡印刷を目指す技術・開発・手法、営業要素が強い作品・サービスなど
新商品、新機器・新手法・新技法による作品、販促成功例、活路開拓・需要拡大商品、未来ビジネスへの足掛かり商品、自社企画による印刷物、印刷物以外の商品、間接的に生産された印刷物、デジタルコンテンツ、LINEスタンプ、ソフト・サービスCD-ROM等のマルチメディア

特に評価して欲しい項目にチェックしてください(複数選択可能)

- | | | |
|---|---|--|
| ☐ 企画・編集への参画
製作物の企画構成・取材・執筆・編集・校正などへの参画 | ☐ 設計・提案
表紙・本文のデザイン・書体・用紙・加工、素材等の提案 | ☐ 文字組版
難易度が高い・禁則ルール等 |
| ☐ 完成度
印刷や造本、製作物の仕上がり | ☐ 後加工・付加価値
特殊加工・特殊印刷等 | ☐ 開発・開拓
新商品開発・新規開発手法・開拓の視点・狙い等 |
| ☐ 顧客開拓、創注
企画提案から顧客開拓、創注に結びついた | ☐ 課題解決
お客様の課題解決に結びついた | ☐ マーケティング・効果測定
マーケティング・効果測定・デジタル技術の活用 |
| ☐ 社会性
CSR・SDGs・持続可能な社会貢献等 | ☐ その他() | |

■ アピールポイント(自由にご記入下さい)【任意】



「色」に関する課題を共に解決し、 生産効率の最大化を目指す トータルソリューション。

総合カラーマネージメントソリューション

FFGS QC Navi

さまざまなジョブをつねに最適なコスト・時間で生産するには、
工程全体の品質の統一と安定化が必要です。
すなわち、「オフセット印刷・デジタル印刷の色品質が統一され、安定した状態」。
この理想的な生産環境の実現に向け、富士フィルムは、
長年にわたる印刷診断活動で得たデータや、独自の知見・ノウハウを活かし、
お客さまの生産設備に合わせた課題解決から、色品質の維持管理まで、
ワンストップでサポートいたします。

富士フィルムグラフィックソリューションズ株式会社

Horizon

Change the focus

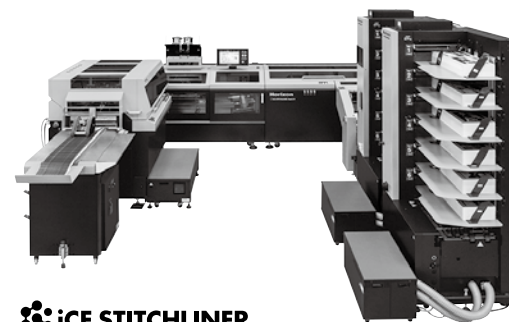
Connected をキーワードに製本工程の自動化を実現します。

iCE Series は、お客様へさらなる高付加価値を提供することを目指した次世代型商品群です。
ユーザーフレンドリーなインターフェースで作業性を向上させ、安定した生産性と自動化を高次元で追求しています。
さらに、ワークフローシステム「iCE LiNK」との連携により、先進的な作業環境を構築できます。

ペラ丁合鞍掛け中綴じ製本システム **iCE STITCHLINER Mark IV**

自動化と製本品質の向上を追求

多品種少量生産に対応するために、全自動化することでセット替えの時間を極限まで短縮しました。筋入れ機構や突き揃え機構、折り部、針金の長さ調整、断裁前の位置調整など、各工程における高精度な調整と加工技術で高品質な製本を実現します。



iCE STITCHLINER

無線綴じ機 **iCE BINDER BQ-300**

使いやすく進化した無線綴じ製本機

新世代 15 インチパネル HorizonXUI (ホリゾンクロスユーアイ) 初搭載。製本のノウハウと自動化技術を融合し、オペレーターの経験や能力に頼ることなく簡単に製本作業を行うことができます。



iCE BINDER

紙折機

iCE FOLDER AFV-566FKT / AFV-564FKT

生産性と折り品質が向上

ナイフ折り時の最適な給紙間隔をリアルタイムに計測演算し、最高の処理速度を引き出すなど、ナイフストッパーの脱着作業を含めた様々な設定を自動化し、幅広いアプリケーションに迅速に対応します。



iCE FOLDER

三方断裁機

iCE TRIMMER HT-300

高生産性と自動化を追求

一枚の断裁刃で天地、小口の三辺を断裁します。断裁前と断裁後の寸法をタッチパネルに入力することで設定が完了し、最高 300 サイクル / 時で高生産性を実現します。冊子厚さの自動測定や、断裁角度の微調整など、自動調整機能により、精度の高い仕上がりを実現します。



iCE TRIMMER

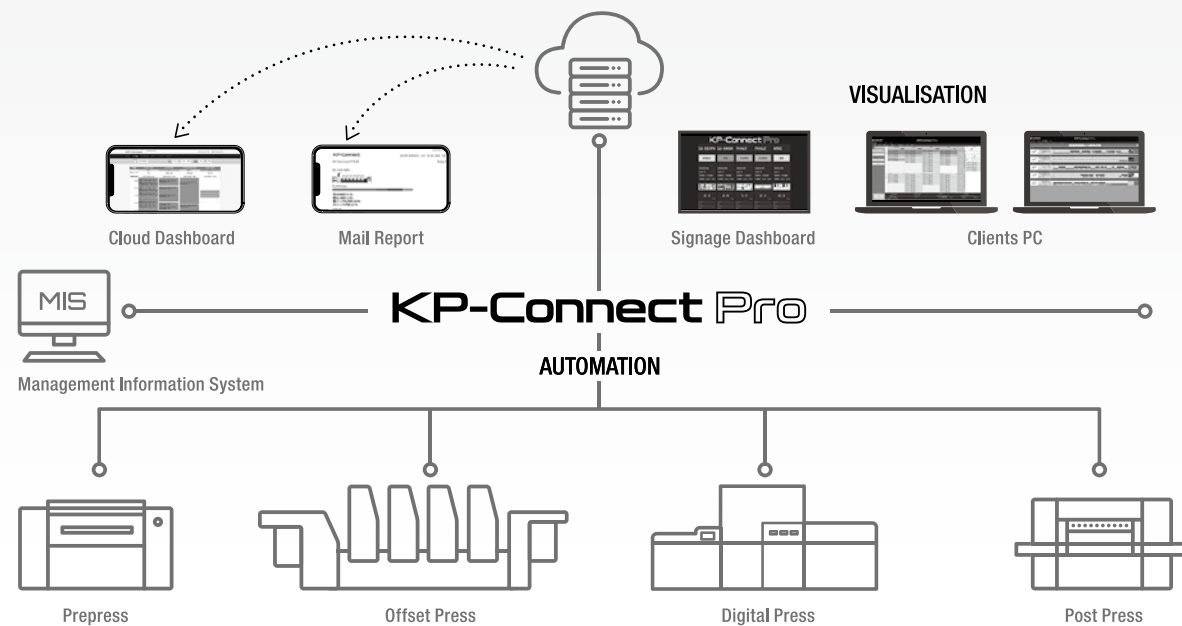
fb.me/Horizon.sns

ホリゾン・ジャパン株式会社 www.horizon.co.jp

本社	〒101-0031 東京都千代田区東神田2-4-5 東神田堀商ビル5F	TEL.03-3863-5361(代)	FAX.03-3863-5360
東京支社	〒132-8562 東京都江戸川区松江5丁目10-9	TEL.03-3652-7631(代)	FAX.03-3652-8083
京都支社	〒601-8206 京都府京都市南区久世大藪町510	TEL.075-933-3060(代)	FAX.075-933-4025
福岡営業所	〒813-0034 福岡県福岡市東区多の津4-12-17	TEL.092-626-8111(代)	FAX.092-626-8112
仙台サービスセンター	〒984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東1-7-31	TEL.022-782-2821(代)	FAX.022-782-3068

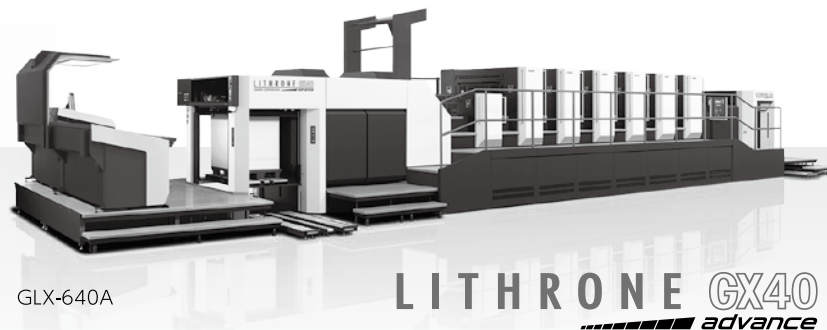
CONNECTED AUTOMATION

— 印刷DX 新しい世界への扉 —



「データの一元化」「見える化」「整流化」「自動化」

advance SERIES



GLX-640A

LITHRONE GX40
advance

『KP-コネクトプロを軸に省人化・省力化技術を搭載した機械や生産システムをつなぐことで、お客様の生産性を極大化していく』概念です。オープンな環境を提供することで、業界の様々なメーカー・ベンダーと連携、共創していきます。

高度な自動化機能を搭載した最新機リスロンGX/Gアドバンスモデルとの併用で、さらなる効果を発揮します。

MADE IN JAPAN WITH STATE-OF-THE-ART TECHNOLOGY

株式会社 小森コーポレーション

〒130-8666 東京都墨田区吾妻橋 3-11-1 TEL.03-5608-7806

www.komori.com

コネクテッド・オートメーション
についての詳細はこちら

<https://www.komorisolutions.com/ca/ja/>



JaGraグループ保険制度

災害保障特約付・災害割増特約付団体定期保険

◆ 割安な価格で充実の福利厚生

(例：30歳男性、1口327円/月)

◆ 70歳まで加入可能

◆ 死亡以外に事故による入院も保障

◆ 医師の診査不要、告知のみで申込



加入・お問い合わせはジャグラ事務局まで

☎ 03-3667-2271



雑学コラム②④ 野口聡の

47 都道府県のお話 (その 22 : 茨城県)

ジャグラ会報をご覧の皆様、こん〇〇は。ジャグラ東京・東
グラ文京支部のアクティブ・野口です。

今回は北関東の一角、茨城県を取り上げて出身の著名人お二
人のお話でもしようかと。まあ二人目は完全に私事で選んだ訳
ですが(笑)

今回も少しの間ですがお付き合いください。

一人目：野口雨情(現在の北茨城市出身)

茨城出身の著名人の方は勿論たくさんいらっしゃるのですが
同じ苗字(!)と云うのもあり、まずはこの方から。ご存知の
通り詩人・作詞家として名を残し、童謡界の三大詩人(残りのお二
方は北原白秋と西条八十)の一人として『赤い靴』『証城
寺のためき囃し』などなど皆が誰でも口ずさめる作品を送り出
した人です。

そんな雨情さんですが、その生涯は中々破天荒だったようで
現在の早稲田大学に進学し坪内逍遙に師事するが1年で中退。
詩を作り始めるも芽が出ず、事業の失敗を経て北海道で3年程
新聞記者を務める(僅かの時間であるがこの時の同僚が石川啄
木)が社内クーデターを画策して失敗し退社・帰京することに。
この後紆余曲折を経て詩壇に復帰し、ここから多数の童謡を世
に送ることになります。

数多ある作品の中でも1番の代表作(と私は思っている)な
のは今から100年前の1923年に発表された『シャボン玉』
ではないでしょうか。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが
この作品が産まれるにあたって、生後僅か7日で亡くなって
しまった長女への想いが込められているというお話がありま
す。現在ではこの話が事実である資料は無くあくまで推察の一
つに過ぎないですが、私はこの説が一番しっくりきます。因みに
現在常磐線の湯本駅の発車メロディーに選ばれているのでス
バリゾートハワイアンズに電車で行かれる方は聴くことがある
かも(笑)

二人目：伊沢拓司(現在の桜川市出身)

二人目はTV番組『東大王』に出演し、今やYouTuberと
しても活躍する伊沢さんであります。今年30歳になる彼と初
めて会ったのは15年前、中学3年の時に私が所属するクイズ
サークルの大会(私がMCをする)に彼が参加してくれたこと
がきっかけです。その後も『優勝したい大会』と言ってファ
イナルとなった2008年までスケジュールが合う限りは参加
してくれました。色々話をする中で感じるのには本当に気持ちの
いい好青年であり得難い人物だなと。この人がクイズの流れの
中に居てくれる内にもっとクイズが身の回りに根付いて欲しい
と思います。最近殆ど会えてないのでたまにはお話ししたいな。

彼が責任者を務めるYoutubeのチャンネルの
「QuizKnock」、クイズに興味が無くても面白いコンテンツな
ので観て頂けると彼の人柄が分かります。

今回はここまでにします。お付き合いいただきありがとうございます
でした。では今月の問題です。

問題：現在の首相の石破茂さんは鳥取県出身ですが、歴代の
総理大臣の中で原敬・米内光政・鈴木善幸と言ったら
出身都道府県はどこでしょう？

第 60 年度・第 5 回理事会 議事録

2024 年 11 月 8 日（金）、両国 KFC ホール 116 会議室にて第 60 年度第 5 回理事会を開催した。
以下、理事会議事録抄録を報告する。

第一号議案 役員の派遣・スケジュールに関する件（承認事項）

〔提案内容〕
役員の派遣・スケジュールを決定したい。（巻末スケジュールを参照）
《検討の経緯》
資料に誤植があり、1 月 31 日の正副会長会議は削除の旨、事務局より説明があった。その他、議場に質問・意見を諮ったところ、発言はなく満場一致で承認した。

第二号議案 事業と役割分担に関する件（承認事項）

〔提案内容〕
事業と役割分担について提案する。
《検討の経緯》
一部抜け漏れがあり、田中専務理事より下記委員の追加削除依頼があった。その他、議場に質問・意見を諮ったところ、他に発言はなく満場一致で承認した。

- 作品展委員会：栃木県支部の宮本誠氏を削除、審査委員として水谷元泰氏（愛知県支部・㈱大元堂）、稲満信祐氏（東京港支部・㈱いなみつ）を追加。
- 業態進化委員会：小林与晴氏（コニカミノルタジャパン㈱）を追加。

第三号議案 全国協議会に関する件（承認事項）

〔提案内容〕
11 月 8 日・9 日に KFC ホール・TKP 市ヶ谷カンファレンスセンターにおいて全国協議会を開催する。実施内容、スケジュールを提案する。
《検討の経緯》
田中専務より、18:00 から開始する懇親会について、賛助会員懇談会を兼ねているため、冒頭 30 分程度乾杯前に賛助会員 P R タイムを設ける旨、補足説明があった。その他、議場に質問・意見を諮ったところ、発言はなく満場一致で承認した。

第四号議案 事業報告に関する件（承認事項）

〔提案内容〕
第 60 年度前期事業報告について提案する。
《検討の経緯》
宮澤理事より、関東地協活動報告について、下記説明があった。その他、議場に質問・意見を諮ったところ、発言はなく満

場一致で承認した。
●5 月 15 日、横浜において、事業承継、業界の空洞化、オンデマンドとオフセットどちらがよいか等を本音で語る会を開催した。
●6 月 1 日、ニッケイビルで事務総会を開催した。来年は松本市で関東地協大会を開催予定。

第五号議案 新入会員承認に関する件（承認事項）

〔提案内容〕
8 月 1 日から 10 月 31 日までの下記新入会員について、承認いただきたい。

入会日	支部	会社名
8 / 2	文京	㈱リ ー プ
9 / 5	福島	㈱昭和紙工
10 / 9	文京	㈱美 巧 社

《検討の経緯》
議場に質問・意見を諮ったところ、発言はなく満場一致で承認した。

第六号議案 その他に関する件

1. page 講演依頼
〔提案内容〕
JAGAT 主催 page2025 の講演依頼が来ているため、承認いただきたい。
《検討の経緯》
議場に質問・意見を諮ったところ、発言はなく満場一致で承認した。
2. 外国人雇用の特定技能実習制度について
田中専務理事より、外国人雇用の特定技能実習制度に関するアンケート調査への協力依頼があった。現在、外国人の特定技能実習制度を利用できるのは、全印工連・全製工連・グラビアの三団体のみとなっているが、ジャグラも要望すれば本制度を利用できるようになる可能性がある、と、経産省から言われている。将来的に外国人を雇用する可能性が 0.1 % でもある場合、ジャグラとして早期に利用の要望を出す必要があるとの説明があった。

3. ジャグラ 70 周年記念誌編集委員会設立について
田中専務理事より、ジャグラ 70 周年記念誌編集委員会設立について、下記報告があった。
●10 年分のジャグラの歩みをまとめた記念誌を作成する。
●編集委員長は中村耀直前会長、副委員長は尾形副会長にお願いし、快諾いただいた。その他、相談役、理事、元ジャグラ役員、業界紙記者等に協力を要請し、快諾を得ている。

4. 予算執行状況
谷川財務担当理事より、予算執行状況について説明・報告があった。
●前期会費は長野県支部のみ未納となっている。
●会員数が減少しているものの、回収率の上昇にともない、会費収入が増加している。
●プライバシーマーク審査料収入が増加し、過去三年間でも非常に大きな収入を上げている。
●地協活動支援金の申請が東北、関東、東海の 3 地協のみとなっているため、未申請の地協については今期中の活用をお願いしたい。
●会員名簿作成費については、郵送費の値上げの影響で予算をオーバーする見込み。
●DTP 教室事業については、集客に向け積極的に広報活動を行っている関係で、広告費を中心に支出増となっている。
●広島大会は、350 万円の経費を見込んでいたが、320 万円におさえていただくことができた。
●運営費については、展示会に出展し積極的に PR を行っている関係で、支出が増えている。
●一般管理費については、エアコン修理、大雨による天井工事等で修繕費が予算に比べ 200 万円ほどオーバーしている。
●エアコンについては、顧問税理士と協議の上、15 年の減価償却で処理することとした。
●全国協議会は前年に比べ 100 万円程度経費をおさえられる見込みとなっている。来年度の全国協議会の会場選定はこれから行うが、経費をおさえながら有意義な会ができることを望んでいる。
《予算執行状況に関する主な意見・質問》
●鈴木理事：エアコンの減価償却は収支決算書のどの項目に入っているか。660 万円だけが費用から資産に移行し、それが 15 年の償却になるということでしょうか。
●谷川理事：減価償却費は収支表の一番下に記載している。減価償却費については 15 年間、年 40 数万円になる見込みである。
《会員名簿発行に関する主な意見・質問》
●黒沢理事：名簿作成費が予算をオーバーしたとのことだが、そもそも会員名簿を毎年発行する必要はあるのか。正式版は隔年の発行とし、修正部分のみ翌年に発行してもいいのではないか。
●谷川理事：会員名簿については、広告費をもらっているため、持ち出しはほぼなく作成できていた。今年は郵送費値上げで 10 万円ほどの持ち出しとなる。
●松下理事：サステナブル委員会の立場からすると、環境への配慮等の面からもジャグラ会員名簿はデジタルへ移行してもいいのではないか。
●本村理事：広報委員会の立場としては、印刷業なので、紙の名簿を発行したいという思いはあるが、ファイル便等でデータ配布するかたちにし、ダウンロードする際にメーカーの広

告が表示される仕掛けがあったら面白い。
●岡本会長：ジャグラ本部サイトで名簿データをダウンロードできるようにし、そのページにメーカーのバナー広告を貼るというのはいかがでしょうか。
●戸来理事：会員名簿は会費に含まれるため、発行しないことが問題にならないか。
●原田副会長：印刷用データを配布し、各支部で必要に応じて印刷製本して配布してもらうのはいかがでしょうか。
●鈴木理事：年一回の会員名簿発行では、その後の入退会も反映されないため、別のかたちで最新の会員情報が反映された情報が欲しい。
●岡本会長：支部単位で従来通りの紙の会員名簿が必要かどうかの意向を聞き、リクエストがあった際は発行することにしてはどうか。データのみで問題ない支部については、ジャグラ本部サイトからデータをダウンロードできるよう、広報委員会主体で進めて欲しい。
●本村理事：ジャグラ本部サイトからダウンロードできるようにする場合、改修等にどのぐらいの予算がかかるか調べて検討したい。
●神山副会長：紙の名簿はパソコンを開かずに見れるので便利だが、デジタルへ移行していくのであれば、データを渡して支部で印刷してもらうかたちにしてもいいのではないか。

5. 自費出版文化賞について
岡本会長より、自費出版文化賞の主催をジャグラから日印産連に移管することを検討している旨、説明があった。
《主な意見・質問》
●後藤副会長：現在、ジャグラから自費出版に 100 万円を支払い、自費出版ネットワークから家賃等で 90 万円をいただいているかたちであるが、日印産連が主催となった際の負担はどうか。
●岡本会長：現在、自費出版ネットワークの事務局はジャグラ事務局内にあるが、日印産連へ移管後は、印刷会館に移転してもらう方向で検討している。
●笹岡理事：自費出版ネットワーク創設の経緯、創設者の思いなどが詳しくわからないので、資料をいただいたうえで検討したい。

監事総括：善甫監事
今回の理事会・全国協議会会場ははじめて利用する場所だが、スカイツリーがよく見え非常によかった。今日は夜の懇親会までの長丁場となるが、頑張っていきたい。

以上で全ての議案の審議を終了した。
閉めの挨拶は森副会長が行った。

印刷業の未来を 共に創る



プリントコンパス 検索



Morisawa Fonts

文字とつながる。世界がひろがる。



フォントのサブスクリプションサービス

豊富な書体ライブラリー / 複数デバイスでの利用 / 簡単なフォントインストール



TOKYO QUALITY.

すべてのSPコミュニケーションに最良の品質を。

ユーザーサポートこそ商品

株式会社ショーワは、謄写版および付属品の販売と謄写印刷業の＜昭和謄写堂＞として、昭和3年に幅弓之助が創業しました。

創業者の幅弓之助は「良いものを売り、売ったものには責任を持つ事」に頑固なまでにこだわり続け、そのこだわりは創業から100年に向けて今なおショーワの社員一人一人にDNAとして脈々と受け継がれています。

長きに渡り、多くの取引先企業様より厚い信頼を寄せて頂けるのも、企業理念にもあります様にユーザーサポートという目に見えない、形のない「商品」だからこそ、付加価値を創造し続け、溢れる情報、市場状況を正確に分析・判断しうる知識とユーザーサイドで常に物事を考える「誠意」が評価して頂けているものと考えています。

今後も常に「ユーザーサポートこそ商品」の企業理念、創業者・幅弓之助の熱い志を胸に社員一同業務につとめていく所存です。

21世紀のグラフィックアーツを共に考えるショーワユーザー会

コラボレーション & リサーチ

SHOWA会

ユーザー会で密に情報交換

年間活動

- 研修会 ○工場見学 ○総会・幹事会
- 会報・メールマガジンの発行 ○有志グループ活動

問い合わせ、入会お申込みは事務局まで

SHOWA会事務局 TEL.03-3263-6141 FAX.03-3263-6149



株式会社

ショーワ

プリントメディアの総合商社

<http://www.showa-corp.jp/>

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2 丁目 7 番 8 号 TEL 03-3263-6141 (代) FAX 03-3263-6149

東京リスマチック株式会社

なんでも相談窓口

プリントデスク ☎ 0120-269-132

平日(月～金) 9:00～17:00 E-mail: support@lithmatic.co.jp



Lithmatic
<http://www.lithmatic.net>

いろいろなコトは モトヤにご相談ください!!

MOTOYA



琴音 愛

皆様と共に歩み続けるモトヤは、
皆様のお困りごとを解決する
「コトウリ」のご提案を続けます。

※詳しくは…



そして、 SDGsのゴールの実現に 協力していきます。



— 2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」への取り組み —

印刷現場の環境改善を考える



環境対応資材

ECO no MISTは、
お客様と共に「環境」と「価値」を考える
モトヤの資材ブランド。
消耗品による環境改善を実現します。

※詳しくは…



※詳しくは…



多くの人へ情報やイメージを伝えていく
美しく、効果的に。
社会への負荷も可能な限り抑制していく
サインシステムの枠を超えた、ルーファス。

人に、社会に、ルーファス



内照式ファブリックサイン

印刷業界の人材採用をお考えの企業様

◇社員紹介 ◇紹介予定派遣 ◇人材派遣 ◇業務委託などのご相談は…

モトヤ キャリアエージェント部へ

大阪 ☎(06)6358-9124 / 東京 ☎(03)3523-8719

人材派遣業 派 27-030254 / 人材紹介業 27-ユ 030174



印刷のソリューションプロバイダー
株式会社 モトヤ

大阪 〒530-0038 大阪市北区紅梅町 2-8 ☎(06)6358-9131(代)
東京 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 4-5-5 ☎(03)3523-8711(代)
横浜・千葉・名古屋・京都・神戸・姫路・福岡



「組合まつり」に参加して

東京グラフィックサービス工業会 文京支部

菁文堂(株) 谷 山 和 也 (広報委員会委員)

2024年10月30日(水)～31日(木)に東京国際フォーラムで、「組合まつり inTOKYO 2024」に東京グラフィックスの「東グラ組合まつり部」として参加しました。

このイベントの主催は、東京都中小企業団体中央会で、東京都内を中心に全国のさまざまな業種の中小企業団体や組合が出展し、異業種や一般来場者へ業界のPRを行うとともに、業界同士の交流を図るものです。総務委員会の所管のもとグラフィックサービス業界のPRを……という目的を持ち、会員から募集し、計14社で参加しました。

このイベントに参加することで、他業種団体・組合を対象とした「B to B」獲得に向け、自社商品・サービスを紹介する等、参加会員にとっても自社に持ち帰ることなど、貴重な体験ができる場となりました。この活動を、さらに組合活動の場を拡げるきっかけになればと、レポートをまとめました。

そのはじまりは2年前、2022年の「組合まつり」後の懇親会での一言からでした。

「全国から130以上集まる組合をターゲットに、営業してみたら？」という事務局Sさんの悪魔のささやきがきっかけでした。そこにMゾウが乗っかり、Kさきサンも巻き込まれ、グループが出来上がった。「東グラ組合まつり部」の始まりです。

翌年2023年は参加する東グラ会員も増え、〇〇社が参加。やはり、特に東グラは、人が集まるとおかしな人も増え、他団体のイベントなのに「こうしたら、ああすればいいのに……」、「広報がダメだな。人が集まるようにしなきゃ……」等々 余計なことを言い始めます。

まだ、言うだけならいい。この人たちは実際に、行動におこしてしまうのです。

2023年は、実際に東グラお得意のバリエブルで各組合名を

名入れした販促物セットを作成し、東グラをPRしながら配り歩くという、がっつり営業活動を実行。他の組合様からは、スタッフジャンパー色の「あの黄色い人たちでしょ?」と言われ、存在をしっかりとアピール。会員の中には、自社商品・サービスを購入いただいた方もおり、目的は果たせました。

が、また余計なことを考え始めるのが、東グラ会員。

「全体の盛り上がりには欠けるよね」「ワークスペースなんかガラガラだね!」等々。挙句の果てに「来年は早くから準備して、組合まつりを東グラまつりにしちゃおうか?」

このノリから、そのころに始まった東グラのクラブ活動として、「組合まつり部」を結成、2023年終了後すぐに打ち合わせが始まりました。中央会の組合まつりを楽しもう! 他の団体ではあるけど、我々東グラも盛り上げ役になり、イベントを成功させよう! という建前を掲げるが、実際は、自分たちが楽しみたい! との一心で……。

履歴を見ると2023年11月にはメッセージンググループを作り、メンバーが次々に集まっています。暇なのか?

いや、暇な人はいないはず……。この活力は何? と常に感じます。

最初の集まりから、それぞれ考えてきた案が飛び交います。

まずは組合まつりでの担当グループ分けをし、ブース担当、ワークグループ担当、営業担当の3チームに分け、話し合い少しずつ形になっていきます。

弊社は営業チームになり、昨年同様、組合様相手に営業をするが、今回は当日だけでなく、組合まつり参加時点でブースの設営、パネル等の製作、販促物制作、そのデザイン……と、考えるだけで我々の普段の仕事の範疇だから、参加する組合様の設え側になって、一緒に盛り上げちゃう? と、話がすすむ、すすむ。



実際に参加会員 14 社それぞれの会員が得意とするものを販促物セットの中に入れ、そのセットを各組合事務局に送り、営業のきっかけを作ろう！ となる。

各会員のサンプル、チラシをそろえ、皆で丁合をとり、Mメールサービスに委託。ここでも会員の強みを生かし、仕事に着々とすすむ、すすむ。

各組合様に発送し、頃合いを見て、全組合様に電話をしていこう！ と意気込み、営業チームの腕の見せどころ！！となったところで、諸事情により、一時中断……。

それでもめげずに、当日に改めて営業をしよう！ と気合を入れなおす。気持ちの入れ替えが早いのか、ただ、単純なのか……。

ブースチームは人集めに、「祭り」をブースでやっちゃう？ と、提灯デザインをあつらえ、なんならブース内で輪投げをして景品をあげちゃおうと、人を集まる仕掛けを施し、準備万端。

ワークチームは自社の得意なことを知ってもらうワークを考え、こちらも集客を真剣に検討。誰が主催者かわからないくらいの熱量で、しかも他の組合のワークまで考え始めちゃうくらい……。

そして、組合まつり当日。例年「組合まつり」に参列するあの東京都知事を、忙しい方なのに、SP もいるのに、呼び止め、絡む、のが定番でした。しかし今回、都知事は参加されないとの一報が入り、Mゾウは意気消沈。心配したが、そこは切り替えが早く、初日の朝からブース前で恒例のラジオ体操を始め、無事に今年もスタート！

スタートしてすぐに東グラブースには人だかり！ あの輪投げ目当てに、列が別のブース前までと、予想外の事態に。すぐにブース担当が並び方を変え、迷惑が掛からないようにしてその場は収まり……。その隣のブースの責任者が東グラのブースを頻繁に覗いていて……怒っているのかと思いきや、「なんでこのブースに人は集まってくるのか？」と真剣に聞いてきました。しっかりと結果を出し、しっかりと他組合様からも評価いただきました。

ワークショップでは「マンガ道場」、「占い」「和綴じ体験」「カレンダー製作」「その場で缶バッジ作成」等、自社の取

り組みをわかり易く体験に落とし込み、これまた、集客に大きく貢献。また、他の組合様のブースにもサクラとして参加……等、ほぼワークスペースに東グラが入り浸り、ここでも盛り上げに一役買う。

二日目のスタート前には、〇〇の発案により、ラジオ体操を参加組合様全体でやろう！ と許可をもらい、朝からテンション高めに、二日目をスタートさせます。

組合紹介コーナーでは、原田会長と、何故か正装の Mゾウが登場。その前日から準備した、進行役のダイノジのお二人向けの画像入り各種グッズを用意。反応は、驚きとともに東グラに興味を持ってもらう。その際に、「東グラ」の呼び名をポップに、「グラサー」と命名いただき、ここでも東グラの持ち味を発揮し、存在感を余計に出しまくりました。

もうここまでくると、組合まつり内での東グラの認知度は高く、各組合様のハードルは下がり、営業もやり易くなっている。営業チームは、2チームに分かれて営業。課題を一緒に解決を、というスタンスで、各組合担当者様と話し、計 10 組合程度の組合まつり後のアポを取り付けます。その訪問時に、組合様機関紙の電子ブック化、車に貼る PR 用のマグネットシート、販促物等の見積依頼をいただき現在進行中です。

このように盛りだくさんな二日間でした。懇親会では、翌年はどうする？ リーダーを決めよう！ 等々、また他団体のイベントなのに勝手に盛り上がり、ようやく 1 年越しのイベントが……他団体主催の、イベントが終了。

この「組合まつり」を通して、東グラ会員で出来ることを自社の営業ツールとして活用できるようになり、弊社では実際に小三味線のボディの印刷物や、展示会用パネルを受注。また、お客様の課題に対して点ではなく、線で解決できるようになれたと思います。

また、なんといっても、今回各会員の参加者は、社員さんが中心であったことに、東京グラフィックスの懐の深さであったり、楽しみ方が感じられ、大成功であったと思います。

また、来年の大成功を期待して、報告を終わります。



日印産連 「2024 G P環境大賞等表彰式」開催 ジャグラから株式会社文伸が受賞

日本印刷産業連合会（日印産連）は 10 月 30 日、東京都千代田区の出版クラブホールで「2024 G P 環境大賞等表彰式」「『印刷と私』トークショー」を開催しました。

本表彰式ではジャグラ（東京都・三多摩支部）の株式会社文伸が G P マーク普及大賞〈オフセット印刷部門〉を受賞しました。

グリーンプリンティング（G P）認定制度は、印刷業界における地球環境への負荷低減を目的とした取り組みです。環境に配慮した自主基準に基づいて工場・事業所を認定し、同基準に適合した印刷製品への「G P マーク」表示や印刷工場が使用する資機材の認定を行っています。さらに、本制度を積極的に活用し、環境負荷の低減に貢献している企業や団体に対して、毎年表彰を行っています。

表彰区分として、印刷製品を数多く発注したクライアントに対して贈られる「G P 環境大賞」、G P 認定工場の中で G P マークの普及に貢献した会社を表彰する「G P マーク普及大賞」、G P 資機材認定製品を登録しているメーカーのうち最も多くの認定製品を登録しているメーカーに、印刷工場の環境負荷低減に寄与しているとして贈られる「G P 資機材環境大賞」。各大賞と準大賞のほかに、過去 3 回以上大賞を受賞した企業に贈られる「G P 大賞ゴールドプライズ」「G P マーク普及大賞ゴールドプライズ」が設けられています。

今年の G P 環境大賞は、〈一般印刷の部〉ではあいおいニッセイ同和損害保険株式会社、日本航空株式会社の 2 社が、〈パッケージ印刷の部〉では株式会社あわしま堂が受賞しました。

G P マーク普及大賞は、〈オフセット印刷部門〉で宝印刷株式会社、株式会社文伸、丸正印刷株式会社の 3 社が、〈グラビア・シール・スクリーン印刷部門〉で株式会社巧芸社が受賞しました。

G P 資機材環境大賞は、〈機材部門〉でキヤノン株式会社が受賞しました。

表彰式では、株式会社文伸 代表取締役社長 川井伸夫さんが自社で印刷した G P マークをあしらった特製マスクを着用して登壇。環境への真摯な取り組みの中にも遊び心を忘れない川井さんらしい演出に、会場は温かな笑いに包まれました。

G P マークとは、印刷資材から工程まで環境基準も含めてグリーン基準を満たしていることを示す総合環境ラベルで、G P 認定工場が製造した印刷製品のみに表示できるものです。2024 年 8 月末時点で全国 447 工場が G P 認定を取得しており、年間約 1900 社が製品に G P マークを表示。累計は 11 億部を超え、環境配慮型印刷製品の普及に大きく寄与しています。

表彰式終了後には「印刷と私」と題したトークショーが開催され、グリーンプリンティング P R 大使の小山薫堂氏がコーディネーターを務め、コーサー クリエイティブディレクターの山崎茂氏、元コーサー アートディレクターで underline graphic 代表の石田清志氏との対談が行われました。



業 界 の 動 き

ジャグラ

自費出版文化賞の表彰式開催 色川大吉賞、シルバー特別賞を新設 自費出版ネットワーク

ジャグラ主催、日本自費出版ネットワーク主管の第 27 回日本自費出版文化賞の表彰式が、11 月 9 日、東京都千代田区のアルカディア市ヶ谷で開催されました。

今年は 718 点の応募作品から 70 作品が二次選考に進み、最終的に大賞の『海と大地と共同の力 反 CTS 金武湾闘争史』（金武湾闘争史編集刊行委員会著、ゆい出版／^(株)平河工業社）をはじめ、部門賞、特別賞と新設の色川大吉賞、シルバー特別賞、入選合計 39 点が選ばれました。

表彰式では、主催者を代表して岡本泰会長が挨拶した後、出席の協賛・後援各社を紹介。協賛会社を代表して富士フイルムグラフィックソリューションズ^(株)の由留部直人様より挨拶をいただきました。

引き続き、最終選考委員の皆さんを紹介し、鎌田慧選考委員長をはじめ各委員より総括講評とコメントをいただきました。

表彰状が受賞者らに贈られた後、休憩を挟んで恒例の受賞者によるスピーチが行われ、作品にかける想いなどが語られました。



受賞者スピーチ（大賞の金武湾闘争史編集刊行委員会メンバー）

業界関連

「Adobe MAX Japan 2025」参加登録開始 2025 年 2 月 13 日、東京ビッグサイト アドビ

アドビ^(株)は来年 2 月 13 日（木）に、東京・有明の東京ビッグサイト東展示棟で、クリエイターの祭典「Adobe MAX Japan 2025」を開催します。公式サイトでは、参加登録を受け付けています。

Adobe MAX Japan は、「Inspire」、「Learn」、「Connect」の 3 つのイベントテーマのもと、キーノート（基調講演）、ブレイクアウトセッション、Sneaks などから構成され、様々なクリエイティブ体験やスポンサーブースを楽しめる展示も並行して開催されます。

キーノートにはアドビ CEO（最高経営責任者）のシャントヌ ナラヤン（Shantanu Narayen）が初登壇するほか、CSO（最高戦略責任者）のスコット ベルスキー（Scott Belsky）やアドビ日本人のスポークスパーソンが登壇し、最新のアドビ製品、新機能、イノベーションなどを紹介します。

さらに今年は例年より数を増やし、より充実したブレイクアウトセッションで、ブックデザイナー・アートディレクターの祖父江慎氏や、アニメーション作家の合田経郎氏をはじめとする各界の第一線で活躍するクリエイターが 70 以上の実践的なセッションを行い、トップクリエイターならではの使い方紹介や事例をベースにしたクリエイティブワークフローへの取り組み方など、多岐にわたるコンテンツを紹介します。

また、国内で活動するクリエイター向けの悩みの相談やクリエイター同士の交流の場としてコミュニティブースが設けられます。現在アドビが開発中の新機能を一足先に披露する Adobe MAX の大人気コンテンツ「Sneaks」も予定。来場者が参加できるクリエイティブ企画や、コミュニティのイベントなどもりだくさんの 1 日となります。

Adobe MAX Japan 2025 の登録サイトは <https://maxjapan.adobe.com/>。※ Adobe ID（登録無料）が必要です。



【Adobe MAX Japan 2025 開催情報】

日時：2025 年 2 月 13 日（木）10:00-20:00

会場：東京ビッグサイト東 7 / 8 ホール棟

チケット価格：数量限定

・一般：20,000 円

・早割：10,000 円（2025 年 1 月 13 日まで）

・学生： 3,000 円

公式ホームページ

<https://maxjapan.adobe.com/>

ジャグラ

東京大会ロゴマークを決定 文化ビジネスサービス・柏瀬さんの作品を採用 東京グラフィックス

来年 6 月 21 日に開催されるジャグラ文化典東京大会に際し、東京グラフィックサービス工業会は会員企業対象に大会ロゴマークのデザインを公募しました。最終的に 22 点の応募があり、第 7 回東京大会実行委員会の席で審査が行われ、^(株)文化ビジネスサービス（港支部）柏瀬亮二さんデザインのロゴマークが選ばれました。



文化庁

滋賀・サンライズ出版 岩根社長 地域文化功労者表彰を受賞 滋賀県支部

滋賀県支部のサンライズ出版株式会社の岩根順子社長が文化庁の令和 6 年度地域文化功労者表彰を受賞しました。

<岩根社長略歴>

サンライズ出版株式会社代表取締役、特定非営利活動法人三方よし研究所専務理事などを務め、図書出版を通じて地域文化の発信や醸成を支えている。同社が出版した書籍には、地域に根ざした郷土史、自然環境の学術書が多く、わが国の地方出版をリードするユニークな出版社として、業界内外で高い評価を得ている。これまでに、平成 9 年ブルーレーク賞、平成 28 年滋賀県文化功労賞、令和 4 年彦根市文化功績者表彰を受賞している。

行政

下請中小企業振興法に基づく「振興基準」を改正 支払いサイト、業種問わず 60 日以内を規定 経済産業省

経済産業省は、関係省庁とともに、親事業者及び下請事業者双方が適切な利益を得てサプライチェーン全体の競争力向上につなげていく共存共栄の関係を築くことを目指して、下請取引における方向性、在り方を示し、下請中小企業の振興を図っています。約束手形等の指導基準の見直し等を踏まえ、「振興基準」を改正しました。

今回の改正では、親事業者及び下請事業者は、下請代金を手形等で支払う場合の支払サイトについて、業種を問わず 60 日以内とすることを徹底する旨を規定しています。また、公正取引委員会が令和 6 年 5 月に下請代金支払遅延等防止法の運用基準を改正し、買いたたきの解釈の明確化をうけて、振興基準でも同様に買いたたきの解釈を規定しました。

※サイトとは、手形、一括決済方式又は電子記録債権における手形期間又は決済期間をいいます。

ジャグラ会員の皆様をはじめ、本誌読者の皆様、まずはこの一年、会の活動にご理解、ご協力、ご支援を賜りましたこと、誌面にて御礼申し上げます。

今年は年初に能登半島地震が発生し、ジャグラでも石川県支部の会員企業様が被災しました。その後も異常気象による大雨など局地的な災害が多数発生しました。被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

国内を見ますと、緩やかに景気は持ち直し傾向にありますが、引き続き物価高の懸念もあり、景気回復感はないのではないのでしょうか。

とくに印刷需要に関してはコロナ禍以降、一部デジタル化したものが戻ることはなく、講演会などもリアル開催が戻りつつありますが、Zoom等ウェビナーも定着し、従来通りのビジネスモデルを維持していくことが難しくなっているかと思えます。

そんな中、業界的には今年は drupa 開催年ということで、個人的にどのような新たな印刷技術が発表されるか楽しみにしておりましたが、日本からの参加者が少ないこともあってか、国内にまで伝わってくるような大きなトピックスはなかったように思います。AI 関係の話が出てきたようですがまだまだ実用段階ではないということでしょう。

この傾向は、印刷業が製造業からコンテンツ産業へと移行していくことを示唆しているようにも感じられます。多くの中小印刷会社にとって今も利益の源泉は印刷製造であることは間違いありませんが、昔のように新たな機械（ハード）が仕事を生み出すという図式が描きにくくなっているのも事実です。

drupa への関心の薄れは心理的な要因として円安もあると思いますが、ハードよりもソフト面の情報を皆さんが求めているということを表しているのではないかと感じました。

ジャグラでは 2022 年に岡本泰会長が就任して以来、ジャグラコンパクト DX 事業を推進してきました。今年の6月の広島大会にて一期二年の任期を終え、再選した岡本会長を中心に引き続き同事業を進めていくことになりました。

生産性向上委員会ではデータクレンジングの半自動化や作業工程管理の自動化を、MIS 研究委員会では単品損益管理を前提とした簡易 MIS の提供、地域活性化委員会でセーフティマップの自動生成システム、業態進化委員会でデータドリブンマーケティングの実践をそれぞれ手掛け

てきました。

これらは全て単にハードの紹介ではなく、会員企業の皆様にご協力いただき実践事例に落とし込んでいます。ビジネス（ソフト）として実際どのように役立つのかに注力しながら事業を進めてまいりました。

今期、本部では「価格競争から価値競創へ〜今こそグラフィックサービス業に転換しよう〜」をスローガンに掲げています。ハード中心の価格競争から、ソフトによる価値競創へとシフトしようという想いが込められています。

日経平均株価は高値を維持していますが、経営的には資材コストだけでなく、印刷単価そのものの安値と人件費の高騰が利益率を圧迫しています。オーバーツーリズムでインバウンド消費が盛んに見えますが、その恩恵にあずかる企業は一部に過ぎません。

10 月の衆議院議員総選挙の結果を見ても、自民・公明の連立与党が過半数割れし敗北したことを受け、政治的な混迷は今後も続くことが予想されます。

不安要素は多々ありますが、ジャグラとしましては今年も一年間、理事、委員会の皆様を中心に毎月活動し、会員企業に役立つ事業とは何かを追求し続けてきました。

先ほど述べましたジャグラコンパクト DX 事業だけでなく、DTP 教室はジャグラショートカットに名称を新たにし、受講者の増強に取り組み、サステナブル委員会は「サステナブルなスモールビジネスの研究」の一環で全国協議会での事例発表から問題提起まで行いました。発足したばかりの会員拡大特別委員会は早くも会員拡大のツールを作成し、各支部へと提供を開始しています。各コンテスト、表彰も応募点数を増やすべく次々と手を打っていきました。

特筆する点では、作品展の応募総数が 600 点を越えたことです。岡本会長の一社一点の依頼に対し、全国の皆さまが応えてくれたおかげで近年にない大幅な増数となり、ジャグラの絆の強さを感じた次第です。来年の作品展では、より参加する意義を感じてもらうため審査基準、審査方法の見直しを進めています。次回も奮ってのご参加お待ちしております。

取り留めのない話になってしまいましたが、最後に事務局を振り返りますと、今年は事務局体制も大きく変わり、ご不便おかけしたことも多々あったかと思えます。しかしながら阿部事務局次長をはじめ職員一丸となって会運営にあたっておりますので、来年も変わらぬご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

事務局日誌と今後の予定

最新情報は HP でご確認ください

11 月の事務局日誌

- 1 日 P マーク現地審査（大阪）→田中専務
- 5 日 広報委員会（Web 会議）→中止
- 7 日 MIS 研究委員会（本部） 地域活性化委員会（Web 会議）
ジャグラショートカット運営委員会（Web 会議）
- 8 日 理事会（KFC ホール）
全国協議会（KFC ホール）
- 9 日 全国協議会（TKP 市ヶ谷）
自費出版文化賞（アルカディア市ヶ谷）
- 13 日 P マーク審査会（本部）→田中専務、今田、長野、古田
- 14 日 P マーク現地審査（大阪）→田中専務 業態進化委員会（名古屋）
- 15 日 P マーク現地審査（大阪）→田中専務
- 19 日 P マーク現地審査（大分）→田中専務
- 20 日 日印産連ステコミュ→岡本会長、田中専務
- 21 日 P マーク現地審査（東京）→今田
- 22 日 P マーク現地審査（東京）→今田
- 26 日 作品展委員会（Web 会議）
ジャグラコンテスト専門委員会議（Web 会議）
- 27 日 P マーク現地審査（大阪）→長野
- 28 日 P マーク現地審査（愛媛）→田中専務
- 29 日 P マーク現地審査（高知）→田中専務

12 月のスケジュール

- 2 日 広報委員会（Web 会議）
- 3 日 会員拡大特別委員会（Web 会議）
正副会長会議（Web 会議）
- 4 日 MIS 研究委員会（Web 会議）
- 5 日 70 周年誌編集委員会
- 6 日 P マーク現地審査（神奈川）→今田、長野
- 10 日 P マーク現地審査（長野）→今田、長野
- 11 日 サステナブル委員会（Web 会議）
- 13 日 ジャグラショートカット運営委員会（Web 会議）
- 18 日 P マーク審査会（本部）→田中専務、今田、長野、古田
- 19 日 地域活性化委員会（東京・文化ビジネス）
JIPDEC 感謝の集い（ANA インターコンチネンタルホテル東京）→今田
- 24 日 業態進化委員会（Web 会議）

2025 年 1 月のスケジュール

- 8 日 理事会（Web 会議）
日印産連新年交歓会（オークラ）
- 16 日 地域活性化委員会（Web 会議）
日印機工年始会→田中専務 山形県支部新年会（山形）→岡本会長
- 17 日 生産性向上委員会（本部） 福島県支部新年会（福島）→岡本会長
- 18 日 長野県支部新年会 北陸地協新年会
- 20 日 東グラ新年会→岡本会長、田中専務
- 22 日 P マーク審査会（本部）→田中専務、今田、長野、古田
- 24 日 JIPDEC 事務所審査（本部）
- 27 日 P マーク現地審査（香川）→田中専務 愛知県支部新年会（名古屋）→岡本会長
- 28 日 P マーク現地審査（徳島）→田中専務
- 29 日 日印産連ステコミュ→岡本会長、田中専務
- 31 日 会員拡大特別委員会（本部）

事・務・局・便・り

今年の7月、私は脳出血で入院しました。このことで多くの方にご心配をおかけしましたが、幸い手術は必要なく、後遺症もなく2週間で退院しました。その後1ヶ月の自宅休養を経て、8月21日に職場復帰しました。この間、多くの皆様から温かい言葉や励ましをいただき、本当に感謝しております。特に私の不在中、業務が滞らないよう事務局の皆様が総出で対応してくださったことに深く感謝しています。この場を借りて、心からのお礼を申し上げます。皆様のサポートのおかげで、再び元気に仕事にすることができました。これからも精一杯努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。（今田）

※「事務局便り」は本部事務局員が交替で執筆しています

月刊『グラフィックサービス』877号

■発行日 令和6年12月10日（毎月1回）
■発行人 岡本 泰
■編集人 本村 豪経
■発行所 一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会 略称ジャグラ
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16
電話 03-3667-2271 ファクス 03-3661-9006
ウェブ <https://www.jagra.or.jp/>



ジャグラは一般財団法人日本情報経済社会推進協会指定のプライバシーマーク指定審査機関です

■編集部宛メール edit@jagra.or.jp

◎企画：ジャグラ広報委員会

担当理事

神山 明彦 愛知・㈱カミヤマ / 副会長

委員長

本村 豪経 福岡・アイメディア㈱ / 理事

委員

東海林正豊 秋田 / ㈱東海林印刷
谷山 和也 東京 / 菁文堂㈱
野口 聡 東京 / ㈱アクティブ
小澤孝一郎 山梨 / ㈱オズプリンティング
安達 睦男 大分 / ㈱舞鶴孔版
蛇蛭 悠太 広島 / ㈱ideal
三宮 健司 高知 / ㈱三宮印刷
佐藤 愛子 大分 / ㈱クリエイツ.
西谷 毅 東京・文京 / 西谷印刷㈱
松谷 勝広 東京・文京 / ㈱松谷メールサービス
笹井 靖夫 東京・文京 / 共立速記印刷㈱
田中 良平 専務理事

◎原稿・編集・校正

田中 良平 阿部奈津子 今田 豪
長野未奈美 岩崎 琴美 古田 理子
以上、ジャグラ事務局

◎渉外 田中 良平

◎広告 田中 良平

◎Web 阿部奈津子 古田 理子

◎動画 今田 豪

◎組版 ㈱クリエイツ.

DTP = Adobe CC ほか
フォント = モリサワ OTF / モリサワ BIZ+ ほか



※本誌の一部にユニバーサルデザインフォントを使用しています

◎製版 / 印刷 ㈱西村謄写堂（高知・高知支部）

RIP = FUJIFILM WORKFLOW xmf

CTP = Luxel T-6300（自現：富士フィルム XP-1310R）

刷版 = FUJIFILM SURERIA XP-F

印刷機 = RYOBI 924D

インキ = 東洋インキ

用紙 = 三菱ニューVマットA判 57.5kg

Copyright 2024 JaGra

禁無断引用

※本誌記載の製品名は一般に各メーカーの登録商標です

原則、TMや®マークは省略しています

※乱丁 / 落丁本はお取り替えいたします

【雑学コラムお題の答え】 岩手県

RMGT-CSPI

ともに創る印刷の未来



グラフィックサービス

GS No.877 2024.12

RMGT-CSPIが

SDGs達成をアシスト



印刷会社のSDGs達成のためのソリューションを提案、具現化するRMGT-CSPI。
各分野の企業が連携し、お客さまに寄り添いながら課題を解決・サポートします。

